

第41回 地球研セミナー / The 41st RIHN seminar series
第2回 ジャカルタ都市研究会 / The 2nd Jakarta Seminar

講師:

ベネディクト・アンダーソン

(コーネル大学政治学部名誉教授)

[日時]: 2009年 11月 12日 (木) 13:30-17:15

[会場]: 総合地球環境学研究所・講演室

*地球研までのアクセスは
>><http://www.chikyu.ac.jp/rihn/access/index.html>

[コーディネーター]: 加藤 剛氏 (龍谷大学社会学部)

[通 訳]: 禅野 靖司氏 (青山学院女子短期大学)

[コメンテーター]: 佐藤 浩司氏 (国立民族学博物館)

山下 裕子氏 (一橋大学商学部)

13:30-13:35

「開催趣旨」

村松伸 (総合地球環境学研究所教授)

13:35-15:45

「革命後のジャカルターアクセス可能な都市」

ベネディクト・アンダーソン (コーネル大学政治学部名誉教授)

15:45-16:00

休憩

16:00-16:15

コメント1

佐藤浩司 (国立民族学博物館民族社会研究部准教授)

16:15-16:30

コメント2

山下裕子 (一橋大学商学部准教授)

16:30-17:15

質疑応答

司会: 甲山治 (京都大学東南アジア研究所准教授)

『革命後のジャカルタ
アクセス可能な都市』

主催

総合地球環境学研究所「メガシティが地球環境に及ぼすインパクト」プロジェクト
通称: メガ都市プロジェクト 代表: 村松伸 <http://www.weuhp.iis.u-tokyo.ac.jp/chikyuker/>
京都大学東南アジア研究所 GCOE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」
<http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/>

お問合せ

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所
担当: 林 憲吾 | HAYASHI Kengo

京都市北区上賀茂本山457番地4
mail: kensuke@chikyu.ac.jp
tel.: 075-707-2340 (直通) / 2353
fax: 075-707-2508

第41回 地球研セミナー / The 41st RIHN seminar series

第2回 ジャカルタ都市研究会 / The 2nd Jakarta Seminar

講師:

ベネディクト・アンダーソン

[日時]: 2009年 11月 12日 (木) 13:30 - 17:15

[会場]: 総合地球環境学研究所・講演室

*地球研までのアクセスは
>>><http://www.chikyu.ac.jp/rihn/access/index.html>

「ジャカルタ都市研究」開催趣旨

都市ジャカルタについて、これまでの行われてきた学問的蓄積を批判的に継承するためのジャカルタ都市研究会の第二回目として、インドネシア、タイ等の東南アジア研究、さらに、『想像の共同体』の著者としてつとに知られるベネディクト・アンダーソン氏に、若い頃からフィールドワークの場所としていた都市ジャカルタについてお話をうかがいます。近著『ヤシガラ碗の外へ』(NTT出版、加藤剛訳、2009年)にあるように、ヤシガラ碗に留まることなく、昆明、ウォーターフォード(アイルランド)、ロンドン、イサカ、そして、ジャカルタ、バンコク、と幸運を背負ったベンカエルはピョンピョンと世界各地の多数の都市をめぐるしました。それらの都市について幅広く深く観察した体験と鋭い思索を織り交ぜた、魅力溢れる講演になるはずです。

ジャカルタ都市研究会
(代表: 村松伸、甲山治)

ベネディクト・アンダーソン | Benedict Anderson

1936年中国昆明生まれ。ケンブリッジ大学卒業。1967年、コーネル大学より Ph. D. (政治学)。コーネル大学政治学部教授等を経て、現在、同名誉教授。専門分野は、政治学、東南アジア学。著書に、『想像の共同体』、『言葉と権力』、『比較の亡霊』、近著に『ヤシガラ碗の外へ』がある。

講演者からの内容メッセージ

革命後(1950年代~60年代半ば)のジャカルタで見られた、さまざまな文脈におけるアクセス可能性、近づき易さについて話すことにしたい。全ての通りはベチャ(輪タク)や自転車に開かれていて、時には馬が一、二頭通ることさえあった。首都の全ての地区はアクセス可能で、高い壁と守衛によって守られた高級住宅コミュニティ、ゲートド・コミュニティは存在しなかった。種々の公共空間が一般に開かれており、これに近づくことが可能だった。当時の最高級ホテル、ホテル・インドネシアの向かい側では、ほとんど丸裸の男の子達がサッカーに興じていた。大統領官邸で催されるワヤン劇は民衆に開放されていて、政治家も、大学、学校も近づき易かった。売春婦へのアクセスも開かれていて、彼女らはまだ売春指定地区に閉じ込められてはいなかった。ストリート・カルチャーが生きていて、子供達は家の中ではなく、ほとんどの時間を家の外で過ごしていた。言語的な近づき易さも存在した。つまり、ジャワ語のような敬語をもたない言葉、インドネシア語(バハサ・インドネシア)が日常的に話されていた。

[コーディネーター]: 加藤 剛氏(龍谷大学社会学部)
[通 訳]: 榎野 靖司氏(青山学院女子短期大学)
[コメンテーター]: 佐藤 浩司氏(国立民族学博物館)
山下 裕子氏(一橋大学商学部)

プログラム

13:30-13:35

「開催趣旨」

村松伸(総合地球環境学研究所教授)

13:35-15:45

「革命後のジャカルターアクセス可能な都市」

ベネディクト・アンダーソン(コーネル大学政治学部名誉教授)

15:45-16:00

休憩

16:00-16:15

コメント1

佐藤浩司(国立民族学博物館民族社会研究部准教授)

16:15-16:30

コメント2

山下裕子(一橋大学商学部准教授)

16:30-17:15

質疑応答

司会: 甲山治(京都大学東南アジア研究所准教授)

アクセス

●JR京都駅より
地下鉄烏丸線で「国際会館」下車。

国際会館駅3番又は4-1番出口より国際会館駅前バス乗り場「2」へ。京都バス40系統(京都産業大学前ゆき)又は50系統(市原ゆき)に乗り、「地球研前」下車。(所要6分)

●京阪沿線より
出町柳で叡山電鉄鞍馬線に乗り換え、「二軒茶屋」下車。徒歩10分。

●車・タクシーでお越しの方
国際会館より府道40号線で二軒茶屋方面へ。



『革命後のジャカルターアクセス可能な都市』